

# 平成 25 年度継続事業に関する継続評価書

研究機関 : 日本電信電話株式会社、沖電気工業株式会社

研究開発課題 : 超高速・低消費電力光ネットワーク技術の研究開発  
課題 I (a)加入者ネットワーク多分岐化・長延化技術

研究開発期間 : 平成 24 ～ 26 年度

代表研究責任者 : 吉本 直人

■ 総合評価 : 適(適／条件付き適／不適の3段階評価)  
(評価点 20 点／ 25 点中)

## (総論)

引き続き研究開発を推進することが適当。

## (コメント)

- 実質半年間の研究期間であるが、計画通りの進捗であり、今後も十分な成果が期待できる。
- 特筆すべき成果が現時点では見られないため、今後に大いに期待したい。
- 標準化活動を非常に積極的に行っている。
- 今後、より多くの外部発表を期待する。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

計画通りの成果が得られ、一部に進歩的な成果が認められる。  
順調に目標を達成している。

(コメント)

- すべての課題において方式検討が終了し、試作機の製作段階である。
- 研究成果発表は国内は予定通りである。国外発表は予定を下回っているが、国際標準化提案数が7件と良好な件数を達成している。
- 特に問題はない。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

研究資金が有効かつ効率的に執行されている。  
予定通り支出されている。

(コメント)

- 研究費はほぼ予算通り執行されている。
- 特に問題はない。

### (3) 研究開発実施計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

#### (総論)

研究開発の実施計画は実施期間を通して実行可能であり、有効かつ効率的に組まれている。  
実行可能な計画となっている。

#### (コメント)

- 研究が順調に実施されており、また、H25 年度分課題の前倒しも可能としている。
- H26 年度分の検討事項がやや少なめに見受けられるため、多くの成果発表を期待したい。
- 沖電気の人員をさらに増員することは評価に値する。
- H24 年度計画書に記載された 30%省電力の目標はインパクトが大きい。

### (4) 予算計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

#### (総論)

翌年度の研究開発実施計画との整合が図られ、全体的に適切な計画となっている。  
具体的かつ明確である。

#### (コメント)

- 有効かつ効率的な予算計画が組まれており、積算額も妥当である。
- 特に問題はない。

## (5) 実施体制

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

### (総論)

研究開発を実施する体制は妥当である。必要な修正が行われ、かつ翌年度の実施計画との整合が図られている。

適切に実施体制が組まれている。

### (コメント)

- 適切な実施体制が組まれており、計画通りの進捗が見込まれる。
- 特に問題はない。